

7-6 防災・減災への取り組み

平成 30 年 7 月豪雨災害を受け、一人でも多くの市民が、自分たちが暮らす地域の地質・地形の成り立ちを学ぶことで自然災害と向き合い、防災・減災につなげる取り組みが重要である。

(1) ジオパークエリアで起きた自然災害情報の提供

計 画 内 容

平成 30 年 7 月豪雨災害を風化させないために、災害経験を伝えることができる方策や災害伝承展示室^{※1}、サイトの活用等を検討し、市民や観光客がより理解を深めることができるような形で情報提供を行う。

1. 現状・課題

過去の自然災害を伝えることができる方策やサイトの活用方法を整理・検討し、市民や観光客にわかりやすい形で紹介できるようにする必要がある。また、ハザードマップは公開されているが市民理解が進んでいない。



西予市防災マップ

2. 計画詳細

過去の自然災害の発生を学べるサイトの整理や災害伝承展示室の活用を通じ、ガイド等が実際に案内する場合において、その情報を活用できるような仕組み作りを進める。また、拠点施設や宿泊施設などにおいては、市民や観光客が目につきやすい場所にハザードマップ等を掲示し、ジオツアー等ではジオの視点で防災・減災への理解が深まるような情報提供を行う。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
サイトの洗い出し											
リスト化											
ハザードマップの掲示											
ガイド講習											

4. 達成目標

■災害情報等が提供できる施設数 5ヶ所



桂川溪谷被災状況



名水百選・観音水被災状況

※1) 平成 30 年 7 月豪雨の災害経験を伝えることを目的として令和 2 年度に乙亥会館内に整備される施設

(2) 防災・減災教育の強化に向けての他機関との連携

計 画 内 容

防災部局や教育部局など、市役所内部との連携や、大学などの研究機関、博物館、NPO などと連携し、防災・減災教育を強化する。

1. 現状・課題

学校や地域で防災教育や減災強化に向けて取り組むためには、庁舎内の連携や他機関からの支援が必要であるため、今後、情報共有等を行いながら取り組みを進める必要がある。

2. 計画詳細

自然災害に関する教育や減災強化のために庁舎内他部署との連携や他機関との情報共有をすすめる。特に学校や地域で防災・減災教育を広げていくためには学校教育課や生涯学習課、危機管理課、復興支援課等との連携が不可欠であり、統一的な教材の作成なども必要となる。伝える内容に関しては大学や博物館などの専門家等の協力が欠かすことができない。

こういった取り組みを通じて、今後発生する自然災害での人的被害ゼロを目指す。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
関係各課との協議											
専門機関や大学等との情報交換											

4. 達成目標

■他機関との連携回数 年2回以上

(3) ジオと向き合った防災・減災教育の推進

計 画 内 容

自分たちの住む地域の地質・地形をはじめとする特性等を学び、自然災害のおそろしさだけでなく、自然から享受している恩恵についても学ぶ「ジオと向き合った防災・減災教育」を推進する。

1. 現状・課題

ジオパークでは、大地の成り立ちを通して自然現象や災害についても学べることから防災・減災教育としての視点も重要である。

本市では、平成30年7月豪雨災害の発生を受けて、防災・減災教育への取り組みの重要性が改めて認識されるようになった。さらに近い将来、南海トラフ地震の発生も確実視されており、特に海岸部にはリアス海岸が発達していることから、津波がより高くなることも予想される。また、山間部においては、平坦部が狭小な地形のうえに急傾斜地も多く、近年多発するゲリラ豪雨等による土砂災害の発生も考えられるため、市民一人一人が身近な問題として防災・減災教育に取り組む必要がある。

2. 計画詳細

市教育委員会及び危機管理課、復興支援課とジオパーク推進室が連携し、自分たちの住む地域の地形や地質の特性等を学び、自然災害の恐ろしさだけでなく、享受している恩恵についても学習できるような「ジオと向き合った防災・減災教育」を市内の学校及び一般市民に向けて広く推進する。あわせて、災害伝承展示室を活用し、被災から学んだ教訓を将来に生かす取り組みを実施する。

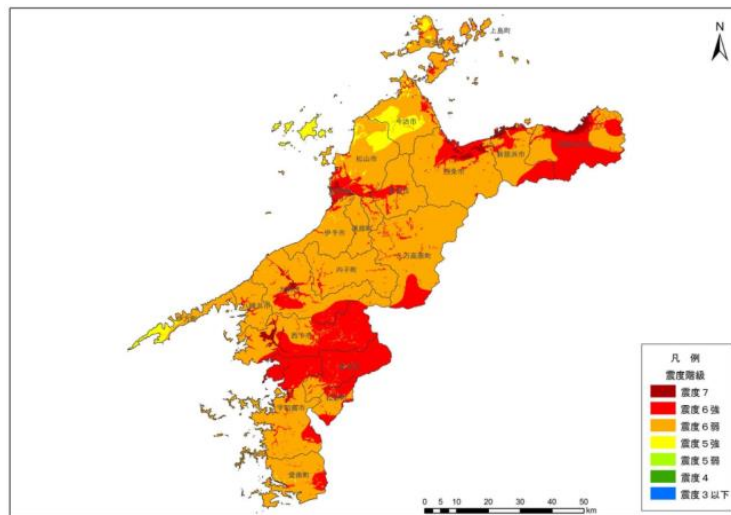


図7.南海トラフ地震発生時に想定される最大震度

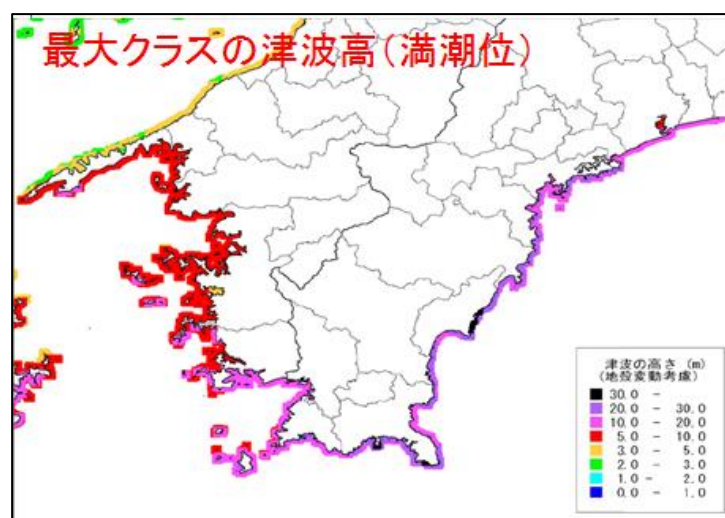


図8.南海トラフ地震発生時に想定される津波高

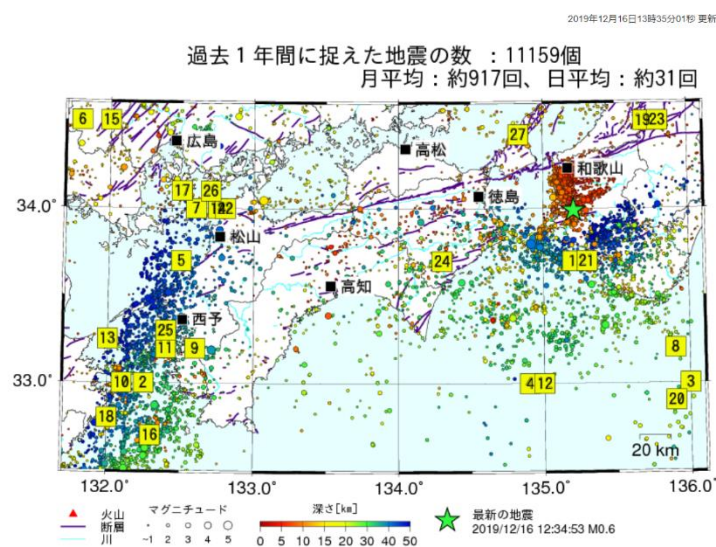


図9.過去1年間に捉えた地震の数防災科学技術研究所
(震津波火山観測網による観測(R1.12.16 現在))

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
講座の広報・周知											
学校での講座の開催											
市民講座の開催											

4. 達成目標

■ ジオパークを活用した防災学習の実施件数

令和元年度 5件以上、令和2年度 7件以上、令和3年度 10件以上

■ 市内各学校へ活動成果報告物の配布

7-7 四国西予ジオパークでの調査・研究活動の推進

ジオパークは「地球遺産の価値を楽しみながら学ぶことで、保全する世論を高める」ことが大きな目的であり、そのためには科学的な価値や意味を整理・確認することが重要である。

さまざまな研究分野の成果を網羅することが望ましいため、地質学だけでなく地形学、考古学、気象学などの知見を整理し、その場所らしさを説明できるように四国西予ジオパーク内での調査・研究活動を推進する。

(1) 各サイトの価値を高めるための調査・研究活動の推進

計 画 内 容

四国西予ジオパークの各サイトで、大地と生態系、人の暮らしとの関連性を科学的に明らかにすることは、その場所の価値を高めることにつながる。そのため、研究者等による調査・研究活動を推進する。

1. 現状・課題

各サイトやジオパークの見どころにおいて、地質・地形が生態系や文化、暮らしにどう関連しているのかを明らかにするための科学的な根拠となる資料やデータが不足している。

2. 計画詳細

大地との繋がりを語るには科学的な根拠が不足している場所やテーマとなりうる研究分野の選定を行い、それらに適した研究者や専門家に協力を依頼する。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)						2020(令和 2 年度)						2021(令和 3 年度)									
	2Q		3Q		4Q		1Q		2Q		3Q		4Q		1Q		2Q		3Q		4Q	
場所やテーマの選定																						
専門家への協力依頼																						
調査研究																						

4. 達成目標

■調査したサイトの数

令和3年度 2件

(2) ジオパーク内での調査・研究活動に対する支援の強化

計 画 内 容

四国西予ジオパーク内での研究者等による調査・研究活動を支援し、ジオミュージアムやジオ関連施設において研究成果や情報の集積を進める。

1. 現状・課題

西予市ジオパーク推進支援事業の中に、学術研究支援事業を設けており、市内宿泊施設での宿泊費を助成しているが、市内での本格的な調査に対応できていない。愛媛大学協働センターの開設やジオミュージアムの完成等を見据えて、支援制度の見直しが必要である。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、四国西予ジオパーク内での地球科学、生物、歴史・文化、防災減災、ジオパーク活動を通じた地域づくり・地域経済などの調査や研究に関する活動を支援し、その成果をジオミュージアム等での情報発信や情報集積につなげるために、支援制度や支援体制の見直しを図る。

また、地域内の学術研究の成果をまとめたデータベースを整備する。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)				2020(令和 2 年度)				2021(令和 3 年度)					
	2Q		3Q		4Q		1Q		2Q		3Q		4Q	
支援制度の見直し														
支援制度リーフレットの作成														
学術研究をまとめたデータベースの整備														

4. 達成目標

■ ジオパーク内における調査研究の件数 年間2件以上

うち、研究者等による市民への成果報告が行われた件数 年間1件以上

7-8 ジオパークを活かした健康・スポーツの推進

近年の健康志向、レジャー志向の高まりによりノルディックウォークやトレイルランニング、サイクリング、スタンドアップパドルボード（SUP）といったアウトドアスポーツの人気は非常に高まっており、西予市においても様々なイベントや普及活動が展開されている。これらアウトドアスポーツと、景観美に優れたジオサイトを多く有する四国西予ジオパークと結びつけることで、健康増進と地域の魅力を知るジオパーク学習との相乗効果を図ることができることから、四国西予ジオパークの魅力を活かした各種アウトドアスポーツの普及促進を図る。

(1) ジオの魅力を活かしたウォーキングの推進

計 画 内 容

市内の多様なジオサイトを楽しむことができるウォーキングやノルディックウォーク等のコースの拡充を行い、市民の健康増進と四国西予ジオパークの普及啓発を図る。

1. 現状・課題

西予市では市民の健康増進のため、ウォーキングやノルディックウォークなどの普及活動が行われている。

ジオパーク活動と親和性が高いと思われ、連携と支援を行う必要がある。



ノルディックウォーク(高川地域)



フットパス(黒瀬城)

2. 計画詳細

健康づくり推進課はジオパーク推進室と連携し、ノルディックウォークやウォーキングの普及活動の一環で行う健康教室を継続的な取り組みとするために、ジオパークの魅力発信と併せて、公民館やジオガイド等と協働して実施する。

また、地域の魅力を歩いて楽しむジオツアーとして、地域づくり組織等が主体的な取り組みを始めている「フットパス」は、地域住民にとって楽しみながらの健康増進にもつながる。

ジオパーク推進室は、地域スポーツクラブが主体となって実施するノルディックイベントや、地域づくり組織等が進めるフットパス、健康づくり推進課による健康ウォーク等を支援し、ジオサイトを活用した取り組みを推進する。

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ジオノルディックの普及啓発											
フットパスの普及啓発											

4. 達成目標

■ ジオを絡めたウォーキング等の開催件数 年3回以上

■ ジオを絡めたフットパス等の開催件数 年3回以上

(2) ジオの魅力を活かしたサイクリングの推進

計 画 内 容

四国西予ジオパークの魅力を活かしたサイクリングコースを整備し、ジオパークを楽しめるサイクリングの普及促進を図る。

1. 現状・課題

愛媛県では全県域を、誰もが自転車に親しみ、自転車を楽しめるサイクリングパラダイスを目指す「愛媛マルゴト自転車道」を展開しており、県と各市町村が連携しハード・ソフトの環境整備が進められている。西予市においては、海岸と里山を巡る特徴的な2つのサイクリングコースが設定されている。

2. 計画詳細

建設課及び経済振興課は、県と連携して四国西予ジオパークの魅力を活かしたサイクリングコースの整備を推し進める。また、ジオパークとサイクリングの相乗効果によるさらなる魅力を醸成し、ジオを満喫できるサイクリングイベント等を地元スポーツクラブやジオガイドと連携し定期開催することでサイクリング人口の拡大と四国西予ジオパークの普及促進を図る。



四国西予ジオサイクリング(城川地域)

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
コース整備推進											
ジオの魅力を生かしたイベント開催											

4. 達成目標

■ジオの魅力を活かしたサイクリングイベントの開催件数 年2回以上

(3) ジオの魅力を活かしたその他アウトドアスポーツの推進

計 画 内 容

四国西予ジオパークの魅力を活かしたトレイルランニング、SUP などの活動を支援し、ジオを絡めたアウトドアスポーツの普及促進を図る。

1. 現状・課題

民間の団体等が実施しているトレイルランニングやスタンドアップパドルボード（SUP）などのアウトドアスポーツは、四国西予ジオパークの魅力が体験できる場所で実施されることが多い。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は民間事業者と連携して四国西予ジオパークの魅力を活かしたアウトドアスポーツへの支援を図る。



スタンドアップパドルボード(SUP)

3. 実施スケジュール

推進作業	2019(令和元年度)			2020(令和2年度)				2021(令和3年度)			
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
イベントの開催											

4. 達成目標

- ジオの魅力を活かしたアウトドアイベントの開催件数 年2回以上